

1 【活動の趣旨】

子どもたちが地域の方との様々な交流を通して、自分の生まれ育った「ふるさと常盤」のよさを見つけ、愛着や誇りが持てるように学校と家庭、地域が一体となって取り組んだ。

2 【特徴的な活動内容】

○「ときわ探検」(3年生)

れんこん農家の見学

今年度は、新型コロナウイルスの感染状況により、毎年探検に出かけていた神社やお寺の受け入れが難しくなった。そこで、学校運営協議会で相談し、「烏丸蓮根」の農家を紹介してもらった。れんこんの収穫時期に合わせ、見学日を設定し、間近で収穫から、



【烏丸蓮根】

出荷までの一連の様子を丁寧に説明してもらった。ちょうど、社会科「畑ではたらく人びとの仕事」に掲載されていることもあり、地域に根付く総合学習だけでなく、社会科の学習も深めることができた。

3 【実施に当たっての工夫】

新型コロナウイルス感染防止対策として、必ずマスクを着用し、密にならないように、今まで室内で聞いていた話を外で伺ったり、教室から体育館などの広い部屋を活用したりして、友だちとの距離をとって活動をした。出かける際には、消毒液を持参し、手指消毒もまめに行った。

4 【事業の成果】

事前に地域コーディネーターと担任、学校担当で地域の方々の「ふるさと常盤」を愛する気持ちや、後世に伝えていきたいという思いが子どもに伝わるように、目の前の子どもに何を学ばせることが必要か相談してきた。

特に今年度は、コロナ禍で状況が二転三転する中、地域コーディネーターが何度も訪問先に伺い、学校がいつ再開しても子どもたちの学習が充実したものとなるように、内容や日程調整などの連携や臨機応変な対応がなされたことにより、学びをとめずに、制限がある中でも、学習を深めることができた。

5 【事業実施上の課題】

今年度、コロナ禍で予測不能な出来事への対応に追われ、ついつい後回しになってしまいがちな地域との連携も、地域コーディネーターや学校運営協議会の方々の支えがあったからこそ、計画していた地域学習を大幅に縮小することなくできた。コロナ禍で地域での受け入れや活動が不可能なこともあったが、その代替りの学習方法や場所・新たな人材発掘にもつながり展望がもてた。